

豊かさと温もりを実感できる 市民が主役の明るい未来づくり

夢と希望の実現へ



鹿屋市長

中西 茂

新年あけましておめでとうございます。市民の皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また昨年、市政に賜りましたご支援、ご協力に対しまして心より感謝申し上げます。

昨年来を振り返りますと、熊本地震や台風など大規模な災害が相次ぎました。本市では熊本地震による被災地への協力・支援としまして、大隅半島4市5町で復興支援チームを立ち上げ、飲料水や食料品等の物資搬送を行ったほか、市職員を派遣し、罹災証明発行、漏水調査、健康相談などの業務支援を行いました。

9月に襲来した台風16号では、家屋や道路、橋りょうをはじめ、多くの農地、農畜水産物にも甚大な被害が発生しました。被災された方々には改めてお見舞い申し上げます。今後も引き続き国や県と連携し、復旧に向け、全力で取り組んでまいります。

一方で、合併10周年という大きな節目の年を迎えたことや、霧島ヶ丘公園に九州初となる全国丹サミットの誘致、産学官民による県内初の自転車競技プロチーム「CIELEBLUE鹿屋」の発足、そしてこのチームから塚越さくら選手がリオデジャネイロオリンピックに出場するなど、明るい話題がありました。

私は鹿屋・大隅地域の将来にとって、ここ5年から10年が極めて重要な時期と考えています。このようなことから、昨年は「市民の声 直行使」、「市長と本気で語るう会」に加え、「高校生議会」と「市政報告会」を初めて開催し、多くの市民の皆様と行政との双方向の対話に取り組んでまいりました。いただいたご意見等は、できる限り一つでも多く市政に反映できるよう努めてまいります。

さて、本市では、少子高齢化の進展に的確に対応し、人口減少が続く中で、将来にわたって持続可能な活力ある地域社会を形成していくため、2060年に9万人程度の人口維持を目標に掲げた「鹿屋市人口ビジョン」及び「鹿屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、具体的な取り組みを進めています。目標を達成するため、「安心・安全に生み育てる環境づくり」「充実した教育や福祉環境づくり」「働く場の確立と拡大」など、市民一人ひとりが夢や希望を持って安心して暮らせる地域づくりに向けた実効性の高い施策・事業を重点的に展開していきたいと考えています。

今年の干支は、「丁酉」です。これまで行ってきた仕事や挑戦してきたことへの結果が得られる年とされています。私は、市民の皆様との対話を通して、市民が主役の明るい未来を実現するため、これまで種々時き、枝葉の出してきた事業を太い幹へと成長させるべく、今年はその集大成として、次世代を見据えた施策を加速的に展開してまいります。

結びに、市民の皆様にとりまして、2017年が素晴らしい一年になりますことを心から祈念申し上げます。新年のごあいさついたします。